

リンプ・ペーパー・コンサベーション・バインディングを試作する (Limp-paper conservation binding)

株式会社資料保存器材

必要な道具



- ① 表紙 1 枚
- ② 見返し紙 2 枚
- ③ クロス 2 枚
- ④ 本紙の折り丁 10 括(8 葉で 1 括)
- ⑤ 綴じの支持体 白鞣し革 2 本
- ⑥ 麻糸、針
- ⑦ 手道具

処置行程

①折り丁(括)を作る



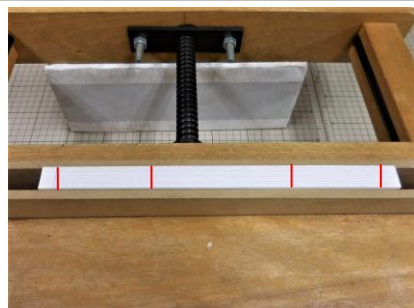
8 葉 1 括として 10 括の折り丁を作製する。
※1 括の本紙の枚数は、使用する紙の厚みで決める。



8 枚まとめて二つ折りにする。
見返し紙もそれぞれ二つ折りにする。



プレス機に挟み、しっかりと折れ癖をつける。




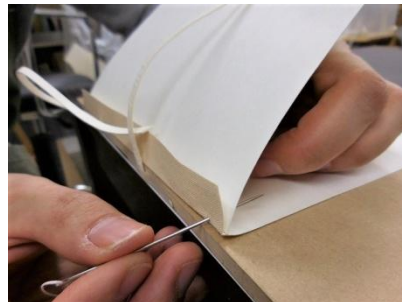
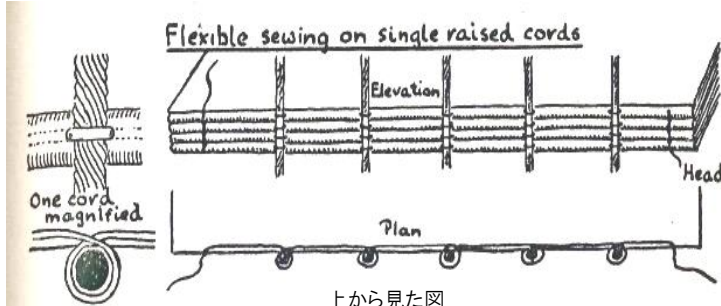
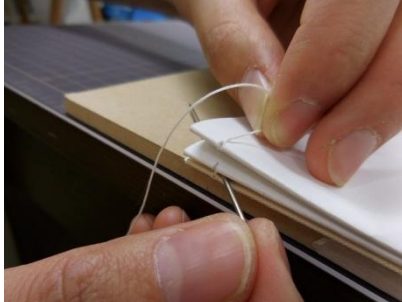
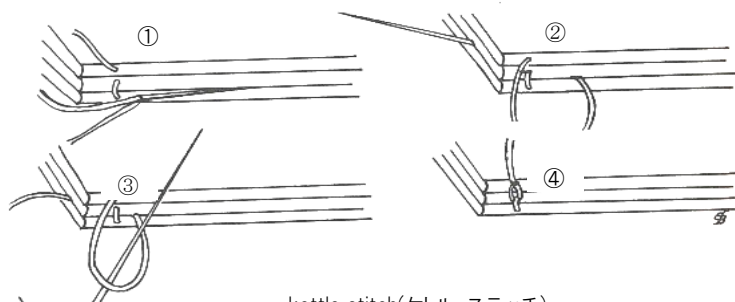


折り丁に綴じ穴をあけるため、本紙と見返し紙を合わせてプレス機に挟み、綴じ穴の位置決めをし、印をつける。



印に添って、のこぎりで切り込みを入れる。

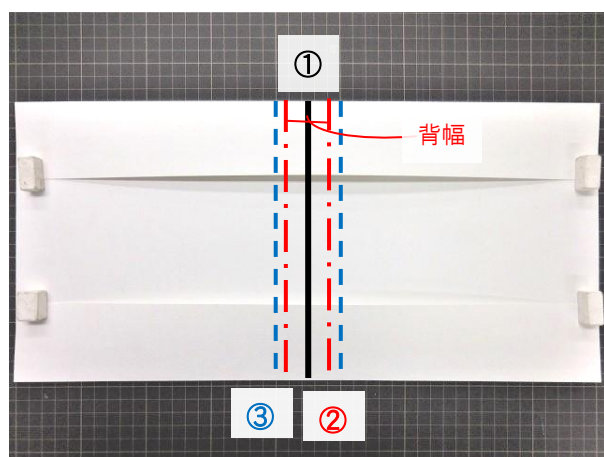
② 綴じる

		
<p>クロスから 15 mm に折れ筋をつける。 このクロスは綴じる際の見返し紙の補強と、表紙との接合の強化の役割を果たす。</p>	<p>見返しの折り丁に合わせてクロスをあて、見返しの綴じ穴の位置に合わせて、クロスにも穴をあける。</p>	<p>綴じの支持体となる白鞆しの支持体をマスキングテープで固定し、綴じる。見返しからクロスと共に綴じ始める。</p>
	<div data-bbox="625 730 1350 1034" data-label="Image"></div> <p>上から見た図 ※1</p>	
<p>天側の穴に外から内に針を通し、綴じ始める。綴じの要領は左図を参照。 ※使用する綴じ糸の太さは、本紙の厚みに合わせて調整する。</p>	<p>背の支持体に糸を 1 回巻き付けて綴じていく。天から地側の穴に向かって針を進め、地側の最後の穴に針がでたら、次の括(折り丁)を重ね、今度は地側から天に向かって針を進め、天側の穴から出た糸と、綴じ始めの最初の糸を結び、次の括を重ね綴じ進める。</p>	
	<div data-bbox="611 1321 1350 1621" data-label="Image"></div> <p>kettle stitch(ケトル・ステッチ) ※2</p>	
<p>3 括目からは右図のように kettle stitch(ケトル・ステッチ)を作る。</p>	<p>括と括の間に針を入れ、糸を引いていくと輪ができるので、そこに針を通して引く。</p>	

※1 E.E.Pullee (1951) 「Bookbinding by Hand:for Students and Craftsmen」 FABER AND FABER

※2 Eric Burdett (1975) 「The Craft of Bookbinding, A Practical Handbook」

③ 表紙をつくる

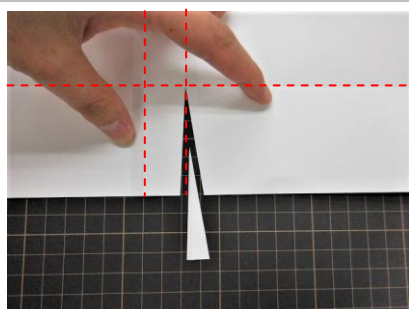


左図は表紙の裏面を上にしておき、折れスジに添って谷折りした状態。

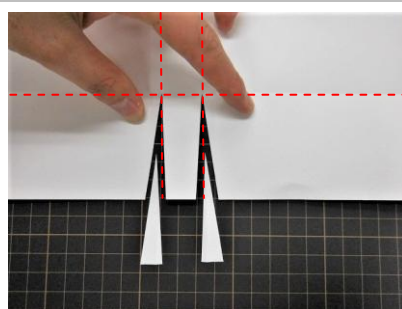
① 長辺の中心に線を引く。

② ①の中心線を基準にして、本体の背幅に合わせたスジを引き、谷折りする。

③ ②の線から6mm外側のところに折れスジを入れ、山折りしヒンジを作る。



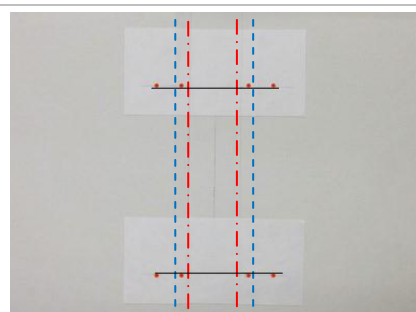
表紙の天地の折り込みを展開し、背と平表紙の境に切り込みを入れる。



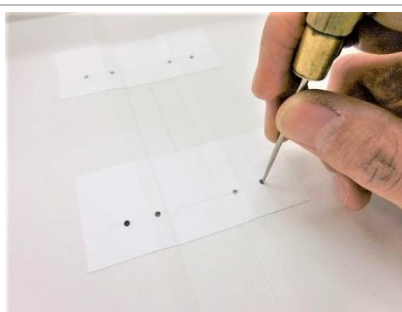
両側に入れる。天地ともに、図のように切り込みを入れる。



折り込みを戻し、折れスジを付けた表紙と本体を合わせ、表紙に支持体がくる位置を印づける。



印をつけた位置を基準に、平行に横に伸ばした線を引き(図の黒線)、図のように赤点の位置に印をつける。

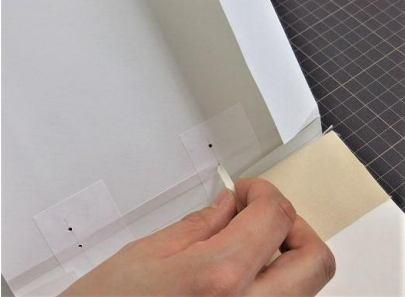






印をつけた位置に目打ちで穴をあける。この穴が支持体を通す穴となる。


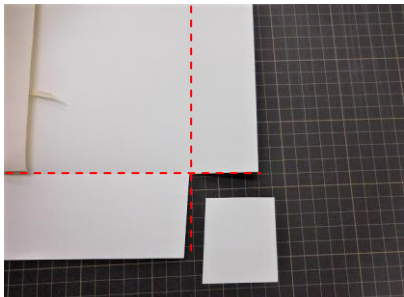
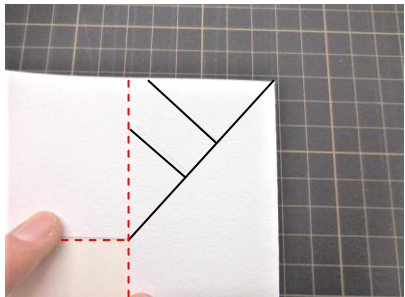
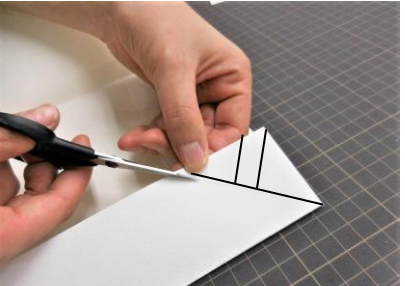
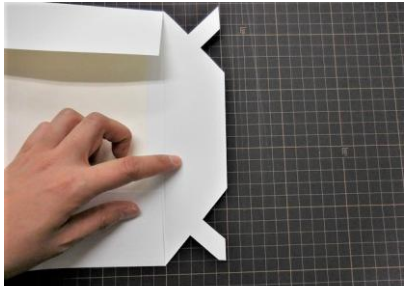
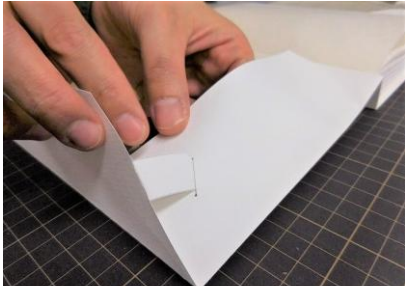
※今回表紙に使用した紙は強度に欠けるため、支持体を通す箇所にタイベックテープを貼り補強しています。

表紙の紙に十分強度があり、支持体を差し込んでも紙が裂けることがなければ、補強は必要ありません。

④ 接合

		
<p>表紙と本体を合わせ、支持体を表紙にあけた穴に差し込む。まず、内側から外側に出す。</p>	<p>支持体を外側に出した状態。</p>	<p>外側に出した支持体をもう一つの穴に差し込み、内側に出す。</p>
		

⑤ 前小口を巻き込む

		
<p>表紙に本体から約 8 mmほど外側の位置にスジを引き、折り込む。</p>	<p>折り込みを展開し、角を図のようにカットする。4 つの角をそれぞれ行う。</p>	<p>前小口の折り込みが上にくるように折り返す。次に図の黒い線のように鉛筆で線を描く。</p>
		
<p>線に沿ってはさみでカットする。</p>	<p>4 つ角すべて同じようにカットする。</p>	<p>天地の折り込みに切り込みを作り、差し込む。</p>



差し込みの完成。



本体の前小口に合わせて表紙にスジを引き、折り曲げる。



本体の前小口を表紙が覆うような形に仕上がる。

完成

